

まだまだ寒い日々が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。インフルエンザや風邪がはやる時期ですが、健康には十分気をつけたいですね。

演奏会の練習で心も体もあたたためて、寒さに負けないようがんばりましょう！

第29回岡山フルートの会演奏会について

2008年3月16日に行われる岡山フルートの会演奏会の案内を同封しております。まだまだたくさんの参加をお待ちしております！参加希望の方は、ぜひ練習にお越しください！！お問合せは第29回岡山フルートの会演奏会実行委員長の山本恵理さんをお願いします。山本恵理さん：090-1684-3149

演奏会情報

岡山朝日高等学校管弦楽団 第6回定期演奏会 『春うらの音楽会』

日時:2008年3月31日(月)18:30開演(17:50開場)

会場:岡山シンフォニーホール

曲目:ワルツ「春の声」(J.シュトラウス)、カルメン幻想曲(ボルヌ)(F)独奏 瀬尾和紀)、
交響曲第2番(ポロディン)他

*特別ゲストとして、フルーティストの瀬尾和紀さんが出演されます。

入場料:高校生以下500円、一般800円

岡山チェンバープレイヤーズ 第28回コンサート

フルートアンサンブル「ローザ」のメンバーによるコンサートです。

日時:2008年4月16日(水)19:00開演(18:30開場)

会場:ルネスホール (Tel:086-225-3003)

出演:小池かほるさん、堺由美さん、野崎愛さん、宮尾紀子さん

曲目:トルコ行進曲(モーツァルト)、4本のフルートのための「フルーツ・パフェ」(伊藤康英)他

入場料:1,000円(ソフトドリンク付)、未就学児無料

プレイガイド:長谷川楽器店、ぎんざや、ヤマハミュージック瀬戸内、ルネスホール

演奏会情報は熊瀬さんに連絡してください

熊瀬さんのアドレス:kumakuma-family@nifty.com

(星っさんコーナーその28)

「ありがたき、わが師の恩」(その2)

星島明郎

岡大卒業と同時に関西交響楽団(略称関響・当時関西唯一のプロオーケストラで大阪フィルの前身)に入団しましたが、常任指揮者の朝比奈隆先生をはじめ数十人の客演指揮者やソリスト達、そして関響に在籍しているメンバーの全ては、私の頼もしい先生でした。特に、隣で吹いていたすばらしいテクニシャンで、関響管楽器群の軸となるオーボエの虎谷迦悦氏(後に東フィル・洗足学園教授)、真後ろから人柄そのままに、柔らかなしっとりとした音色で私を包み込んでくれたクラリネットの宮本淳一朗氏(後に大阪音大・相愛大講師)は、ほぼ同年齢でもあり、この上ないアドバイザーでもありました。とりわけ、オペラ・バレエも含めて年間数十日にも及ぶ演奏旅行での彼等との裸の付き合いで得たものは非常に大きかった。先ずは指揮者の批評から始まって、当日の演奏の出来具合、自らの音楽観、人生観などの語らひは、何ものにも替え難い貴重な経験で、私の血となり肉となったと思います。

その後、関響を退団して教職につき、学ぶ立場から教える立場に変わりました。今となって思えば、これまで数多くの師、様々な先輩たちの恩を山のように頂いていたのだなーと、今さらのように有難く思います。でも、私にとって何よりも何よりも大きなものは、過去数十年にわたって、私の生徒たちから得たもの、教えられたものではないかと思っています。私はこれまで、本当に大勢の豊かな才能を持った生徒たちに恵まれました。彼ら彼女たちから得たもの、教えられたことは数限りなく、計り知れません。私の真の師は、実は私の生徒たちだったかも知れません。先日(昨年暮れ)亡くなられた嘗ての野球の名選手稲尾投手が、長嶋選手との対決を回想して「ピッチャーはバッターを育て、バッターはピッチャーを育てる」と語っていました。問題の内容はかなり違いますが、私の場合「先生は生徒を育て、生徒は先生を育てる」と言い換えて納得しています。教えるためには常に自ら学ばなければなりません。「教えることは学ぶこと」と言う格言もあります。「背負った子に教えられ」と言う諺もあります。生徒の皆さんに、さらに加えてフルートを吹かれる全ての人に、心から「ありがとう」と感謝の言葉を申し上げて、この項を終わります。

読み返してみると、恩師のことを書くつもりが、自分の回顧録ようになってしまいました。年寄りの独り言としてお許しください。

【会報の封筒詰めのお知らせ】

2月号の会報の封筒詰めを、3月4日(火)午後7時から長谷川楽器店3階ホールで行います。会員の皆さまには、是非、封筒詰めのお手伝いをお願いします。

